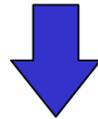


知床が目指すエコツーリズムの 将来ビジョン

自然環境の保全、利用者の高い満足度、地域への経済効果が相乗効果を呼び、質の高い観光地として持続的な経営が可能となる。
⇒ 「世界に誇る豊かな自然とコントロールされた利用」の実現

観光地としての知床の現在の課題

- 世界遺産登録後顕著になった特定の観光地への利用の集中による諸問題
遊歩道の混雑、駐車場の渋滞、踏み付けによる植生破壊
- 自然ガイドの急激な需要増加に伴うガイドの質の維持・管理
- 地域のインフォメーション・ツアーオペレーションが統一されていないため情報提供の効率が悪く利用者にとっての便宜が図られていない
- 通過型マストツーリズムの受入れが主体であることによる不安定な集客、少ない地域への経済効果
- 環境保全のための受益者負担システムの欠如



実施すべき施策

- ルール、ガイドラインの運用によるコントロールされた利用システムの構築とガイドプログラムの質の向上
- インフォメーション窓口の統一による利用者の便宜の向上と戦略的な情報提供
- 滞在型観光への転換と利用の分散
新たな魅力の提案、地域の産業との連携
- 自然環境を損なうことのないよう、利用による環境負荷をモニタリングするシステムの確立
- 公園管理、環境保全に関する受益者負担システムの構築
- これらの施策を自立的に実行できる実施体制の整備



実施体制・財源

- 両町観光協会を中心に統一的な窓口を整備し、戦略的な情報提供、マーケティングを行う。
- 知床ガイド協議会はガイド利用に関するルールの運用などを通してガイドのクオリティ管理を行う。
- 知床財団は利用状況、環境負荷に関するモニタリングなどを通して保全の立場からのチェック機関としての役割を担う。
- これらの機関が連携をとりながら利用と保護のバランスがとれたエコツーリズム推進のための事業を実施する。
- 観光収入からの還元や利用者からの受益者負担システムを確立し、エコツーリズム推進のための独自財源を確保する。



半島中央部地区の既存観光地 (知床五湖・羅臼湖など)

- エコツーリズムガイドラインや利用適正化検討によって策定された利用のルール、システムに基づき、自然環境への影響を極力抑えつつ、それぞれのニーズにあわせて利用者が知床の自然を楽しむことができる場を提供する。
- シャトルバスシステムなど利用者の満足度と環境保全を両立させる交通システムの導入。

半島先端部地区

- 利用適正化検討によって策定されたルール・システムに基づき、原生のままに残る知床の自然の中でしか体験できない高付加価値なエコツアーを展開する。

ガイドツアー

- 「エコツーリズムガイドライン」など適正なルールに基づき、環境への配慮と安全管理が徹底された質の高いエコツアーが展開される。
- 利用者はこれらのエコツアーに参加することで、知床の自然と文化を学び、体感し、知床でしか味わえない感動体験を得ることができる。

地域の産業との連携

- 豊かな自然の中で営まれる漁業や農業を活かした体験プログラムなどがエコツアーとして定着し、自然だけではなく知床の産業・文化・歴史も観光資源として活用される。
- 観光産業だけではなく、地域全体が利用者の受け皿となることで、地域が活性化する。

観光収入の環境保全への還元

- 利用者から利用料を徴収するシステム、または観光業者が収入の一部を拠出するシステムにより、環境保全のための原資とエコツーリズム推進のための事業費が確保され、経済的にも環境保全的にも持続的な循環が成立している。

利用の分散

- 国立公園外、半島基部、道東圏へ広域的に展開し、利用の分散が図られる。

滞在型観光の定着

- 知床に2泊3泊する利用者が増え、じっくりと知床の魅力を楽しむ観光スタイルが定着する。
- 観光地としての質が高まり、客単価が上がることで地域への経済効果が高まる。
- 全体の入り込み数減少と利用の分散によって自然への負荷が減る。